

市立

いちかわ

# 自然博物館だより

平成31年(2019年)

4-5月号

(通巻 181号)

2019年度

あたりまえの風景に  
あたりまえの生き物に  
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

シヨウブ

いい香りがする葉は、お風呂にいれて  
菖蒲湯にします。花は、ミズバショウ  
の花の中の部分そっくりです。

P1 ☀️ いきもの写真館  
シヨウブ

P2 ☀️ 明治時代の地形と土地利用  
国分台・国分谷  
/ 3

P4 ☀️ いちかわの植物 30年  
クサボケ ヒトリシズカ

P5 ☀️ 街かど自然探訪  
湊・春の草花

☀️ くすのきのあるバス通りから  
春の花木とさくら

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題  
好戦的な タイワンガザミ

P7 ☀️ わたしの観察ノート  
1月～2月の記録

P8 ☀️ 行事案内

## 明治時代の地形と土地利用

# 国分台・国分谷

国分台は、国府台・国分地区一帯の台地の呼び名です。里見公園やスポーツセンター、真間山弘法寺、下総国分寺などが位置しています。国分谷は、国分台の東側、国分川が流れる谷の呼び名です。外環道路が走る大きな谷の地形です。

### 明治時代の土地利用図

現在の市川市域は市街化が進み、土地本来の地形が読み取りにくくなりました。その点、明治時代は地形に合わせた土地利用が行なわれていました。逆に言うと土地利用が地形をある程度反映しているので、土地利用図から大まかに地形を知ることができます。

#### 畑があった場所

右ページの図は、1880（明治13）年の地形図に着色した土地利用図です。白黒印刷では色の差がわかりにくいのですが、利用形態が図中に文字で書かれているので、それを見ると土地利用がわかります。

図中、「畑」と書かれた場所は大きく3つのグループに分かれています。図の①②③です。これらはいずれも台地にあたる場所で、標高は20m前後です。市川市域の台地はいわゆる関東ローム層でできていて水はけがよく、畑作に適した土地柄です。

#### 畑を区切る細長い田

畑が3つのグループに分かれているのは、それぞれの間に「田」と書かれた細長い場所があるからです。図の④⑤で示した場所で、ここは標高10mよりも低い谷の地形です。④は現在のじゅん菜池緑地がある谷で、地図にも「蓴菜池」と書かれています(A)。⑤は東京外かく環状道路が通る谷で「道免き谷津」と呼ばれています。この谷にも奥の方に大きな池が示されています(B)。

谷は沖積層と呼ばれる砂泥まじりの土で地下水の層に近く、掘れば水がたまるような土地柄です。台地に降った雨水も集まってくるため、水田に向いています。

④⑤の谷は、台地を①②③の3つに刻んでいます。このような細い谷を「谷津」、谷津にある水田を「谷津田」と呼びます。

#### 連続する斜面林

①から③の台地を縁取るようにある濃色の部分（PDF版では濃緑色）は林です。台地から谷へ下る斜面にあるので斜面林と呼ばれますが、明治時代では斜面林がほぼ連続したひと続きの林であったことがわかります。図中には「松」「杉」「櫟（くぬぎ）」といった文字があります。現在も残る緑地（堀之内貝塚公園、小塚山公園、じゅん菜池緑地、国府台緑地など）は、連続した斜面林の一部が残ったものです。

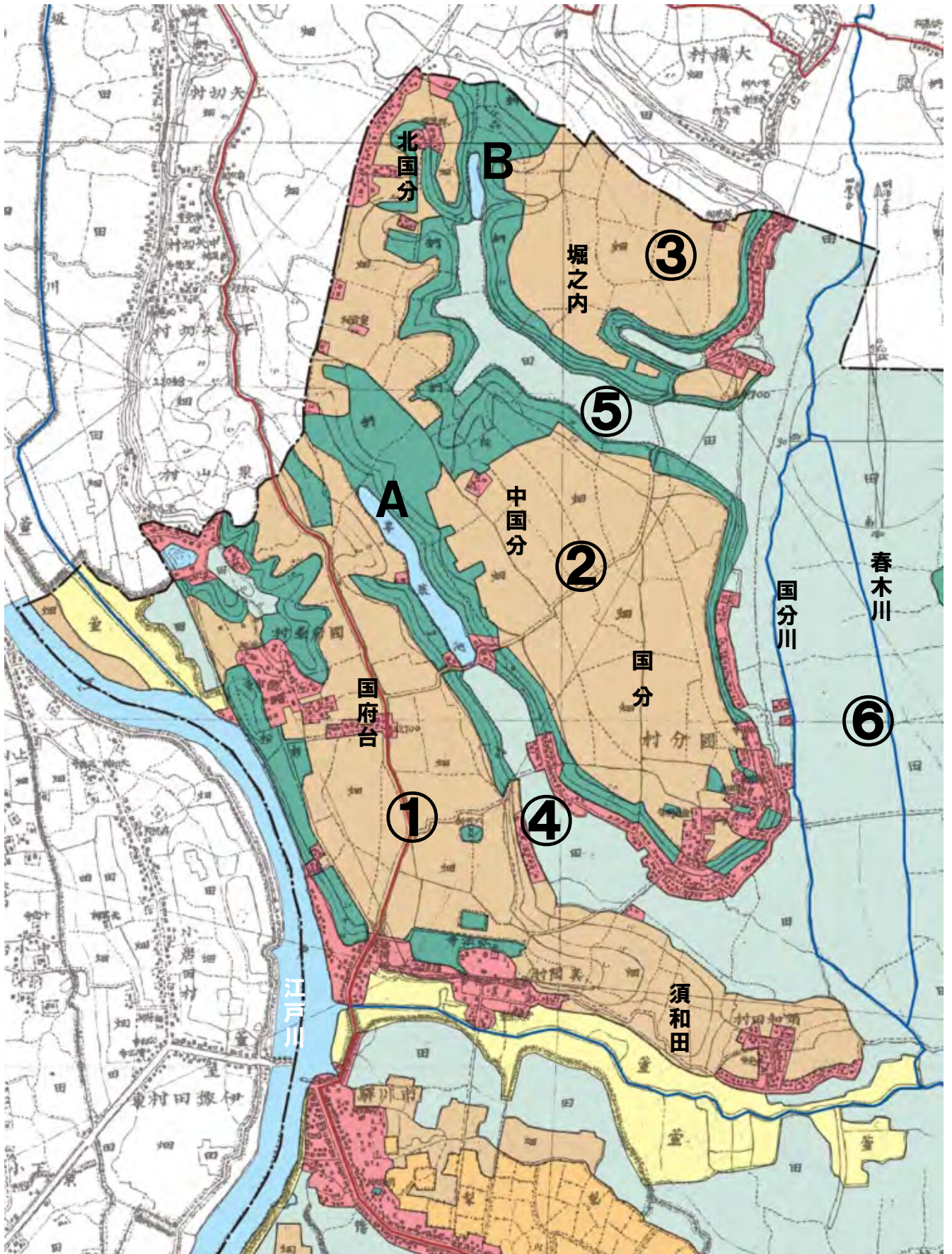
#### 国分谷

田と書かれた④⑤の谷は、そのまま図中⑥へ続きます。⑥は、国分谷と呼ばれる大きな谷で土地利用はやはり「田」です。水の流れて言えば④⑤が支流で⑥が本流です。⑥の谷に示された2本の川は、現在の国分川と春木川です。

#### まとめ

①②③は台地で土地利用は「畑」、④⑤⑥は低地で土地利用は「田」、その両者の境が「松」「杉」「櫟」などと書かれた斜面林というわけです。





1880（明治13）年の国分台・国分谷の土地利用図

現在の川名、おもな町名を入れました。市域外は着色していないので図から読み取ってください。

「市川市史自然編 都市化と生きもの」P47 図2-2-3より一部抜粋して使用



## いちかわの植物 30 年

自然博物館の 30 年あまりの活動で得られた写真を用いて  
市川市域の植物を紹介します。



クサボケ(1987 年 4 月 14 日)  
北国分 1 丁目小塚山公園

### クサボケ

クサボケは、春の明るい雑木林で咲く低木です。鮮やかな橙色の花弁は春の花としては珍しく、黄色の雄しべとの組み合わせが印象的です。

株の大きさとは釣り合いの大きな実をつけますが、結実は稀で、過去数回しか見たことはありません。刈払機が普及し林の草刈りが隅々まで徹底されると、夏草もろとも刈り取られてしまいます。鎌と熊手の「お目こぼし」で生きてきた野草のひとつかもしれません。



ヒトリシズカ(1986 年 4 月 24 日)  
柏井町 2 丁目の雑木林

### ヒトリシズカ

いつも人気の春の山野草です。花弁のない独特な花の形と、花序をやさしく包み込む 4 枚の葉の風情が、みやびな名前とマッチしています。花のパーツの配置だけみればドクダミの花とよく似ているのですが・・・

クサボケ同様、明るい春の雑木林に生えるイメージですが、写真の株は杉の植林地で咲いていました。花後は葉が大きく展開します。学生の頃、「ひとり賑やか」だね、とよく話していたことが思い出されます。



# 街かど自然探訪

おじゃまします!

## みなと 湊 ・ 春の草花

堤防で、春の草花を探しました。白いナズナとオランダミミナグサ、黄色のタンポポ、ノゲシ、コメツブツメクサ、青色のオオイヌノフグリと小さなタチイヌノフグリ、ピンク色のホトケノザと紫色のスミレの仲間、などが咲いていました。つぼみの見えたアザミの仲間は、何色の花でしょうか。ムラサキケマン、アメリカフウロも咲くのが楽しみです。近頃は、外来植物、在来植物と分けてみることも多いようですが、街中ではどちらもが春を彩る小さな花たちです。

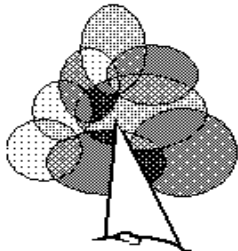


### △ ホトケノザ

白っぽく見えるのが、細長い花。

(PDF版ではピンク)

アスファルトの隙間から勢いのある株が生えている。



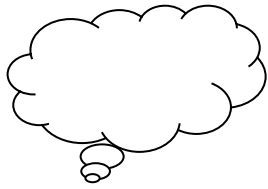
## くすのきのあるバス通りから No.123

# 春の花木とさくら

冬の間、庭に手を加えていなかったのので、ハコベとホトケノザとハハコグサとノビルが伸び放題でした。2月24日に、草取りをするとき綺麗な黄緑色のクビキリギスが隠れていました。成虫で越冬するのですね。暖冬で早く春が来るかと思いましたが、寒い日もあり、三月に入り、住宅街のあちこちの、ジンチョウゲ、ミツマタ、サンシュユ、カンヒザクラ、ハクモクレンが咲きました。市川病院向かいのカンヒザクラ

は、木が弱っているのか半分だけ咲いています。我が家のオオシマザクラ？は葉と一緒に咲き始めました。足立区の舎人公園で「ジンダイ」ザクラを見ました。ソメイヨシノに代わる桜といわれているようです。咲いてもピンクが濃く、カワヅザクラとも違った雰囲気です。真間川のソメイヨシノは、数輪から一分咲きです。26日大柏川で、ツバメを2羽見ました。

(M.M.)



# 展示室

No.25

## 飼育生物の話題



### 好戦的な タイワンガザミ

ワタリガニの一種タイワンガザミは、体色にブルーが混じるきれいなカニです。漁師さんからいただいたものを飼育していますが、一度の脱皮を経て、60センチ水槽では窮屈な大きさになりました。このなかまの飼育展示としては、うまくいっています。

展示水槽は、毎朝掃除し、あわせて餌を与えます。餌のタイミングにあわせて活発になる生き物は多くいますが、タイワンガザミの活発さは半端ありません。写真は、水槽のガラスふたをとった状態です。細長い2本のハサミを突き出して向かってきます。あろうことか、ハサミを水の外に出して威嚇してきます。これでは、水槽の中の拭き掃除ができません。先に餌（ザリガニの身の部分）を持たせて気をそらそうとするのですが、水槽内に手を入れようとすると、餌を食べながらも片方のハサミを伸ばしてきます。食べながら攻撃する、このパターンは困りますね。

となりの水槽で飼っているノコギリガザミはここまで好戦的ではないものの、ハサミが届く射程内に手が入ると、瞬間的に2本のハサミで突いてきます。一撃必殺のノコギリガザミと、ハサミを振り回すタイワンガザミ。ワタリガニにも個性があります。水槽が汚れたままなのは、もちろんタイワンガザミの方です。



# わたしの 観察ノート

## ◆長田谷津より

- ・ガサガサと音が聞こえ、探してみるとアカハラでした(1/25)。今冬はシロハラばかりが目につきます。
- ・昨夜に降った雪が観察園に少し積もっていました(2/1)。その上にタヌキの足跡がくっきりと残っていました。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・アカガシの葉で、ウラギンシジミが越冬していました(2/7)。園路のそばなので、気づければ観察は容易です。
- ・木の上から、季節外れのサシバの声が聞こえました(2/10)。声そのものも弱々しいし、季節も不自然なのであれと思ったら、続いてカケスの声がしました。数日前には、ツミの声をまねたカケスがいました。タカの声真似名人のカケスがいるようです。

以上 金子謙一(自然博物館)

- ・スナヤツメの幼魚が泳いでいました(2/22)。砂から出て泳いでいるところは初めて見ました。成魚の産卵が待ち遠しいです。
- ・オオタカがペアで鳴き交わしていました(2/23)。ディスプレイフライトが見られるかと期待したのですが、斜面林から出てくることはありませんでした。
- ・水路でガガンボの仲間の幼虫がのたうち回っていたので、何かと思って見てみると、オニヤンマのヤゴに捕食されていました。自分と同じくらいかそれ以上のガガンボの幼虫を捕食する、オニヤンマの獐猛さをまじまじと感じました。

## ◆大町より

- ・朝、広い駐車場にカワラヒワが50羽ほど降りていました(1/26)。一斉に飛び立つと黄色の羽が透けてとてもきれいでした。

以上 稲村優一

## ◆大柏川第一調節池緑地より

- ・透明感のある青空を優雅に帆翔していたノスリが、カラスに追われて急降下で降りてきました(1/20)。緑地外周の、人が立ち入れない場所の木にとまると、タイミングを合わせたかのように、湿地からオオタカが飛び立って同じ木にとまりました。2羽のタカがいて、カラスは木の上を飛ぶだけです。

## ◆中山より

- ・小学校の中にあるトウネズミモチは、秋の観察では実がいっぱいあったのに、冬の観察では、一つも残っていませんでした(1/16)。ピラカンサもカキも同様でした。継続観察の楽しいところですね。

以上 金子謙一

## ◆国分川より

- ・中州に隠れるようにコガモが10数羽いました(1/17)。ヤナギの藪にシジュウカラ、スズメ、ツグミ、道沿いでハクセキレイとコサギ、ヒヨドリが賑やかでした。

宮橋美弥子(自然博物館)

年末からのカラカラ天気が一月中続き、雪もほとんど積もらず、厳しい寒さの日もあまりありませんでした。



# 行事案内



## おやこ自然観察会

お申し込みが必要です。

水辺の生きものを自分たちで捕まえて観察します。

おやこで楽しめる自然観察会です。

- ・場 所 自然観察園
- ・時 間 午前10時～12時
- ・定 員 各回とも、先着 親子20組  
親子対象です。

日にち	受付開始日
5月12日⑩	4月20日より
6月 9日⑩	5月18日より

### お申し込み方法

受け付け開始日以降に  
往復はがきに参加者全員の  
住所、氏名、年齢、電話番号、  
返信面に返信の宛先を明記の上、  
下記までお申込みください。

〒272-0801 市川市大町 284 番地  
自然博物館「〇月観察会」係まで

## 長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日 時 5月4日⑩、6月1日⑩、7月6日⑩、 午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

## 季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日 時	集 合 場 所
春の田んぼ	5月19日⑩午前10時～11時30分	動物園券売所前 午前10時

## 長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいませんか。

(雨天中止)

- ・日 時 4月28日⑩、5月26日⑩、6月30日⑩、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けを  
お手伝いして下さいませんか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日 時 5月5日⑩、6月2日⑩、7月7日⑩、  
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、  
博物館までお電話でお問い合わせください。

第31巻 第1号 (通巻第181号)

平成31年4月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館  
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477